

公共施設を考える

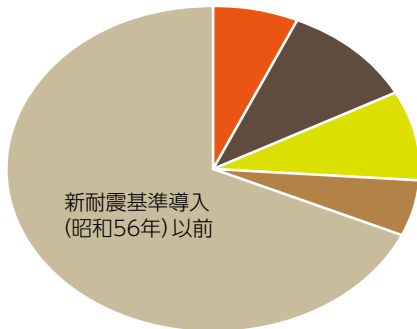
町では現在、「二宮町総合計画」や「二宮町総合戦略」、「二宮町公共施設再配置に関する基本方針」などに基
づき、各公共施設の現状を踏まえ、公共施設再配置・町有地有効活用実施計画（仮称）の策定に向けて検討を進め
ています。

■公共施設の現状と課題

町が現在保有する66の公共施設のうち31施設が
築30年以上であり、そのうちの25施設が新耐震基
準が導入された昭和56年以前に建築されています。

この中には、役場庁舎や駅前町民会館、町民セ
ンターなど、町民の方々の生活に直結する施設も
含まれ、一部には耐震診断や耐震補強工事が実施
されていない建築物もあることから、今後の対応
が課題となっています。

経過年数ごとの床面積内訳



■ 0～10年 ■ 11～20年 ■ 21～30年 ■ 31～35年

※建築経過年数であり耐震改修は考慮していません



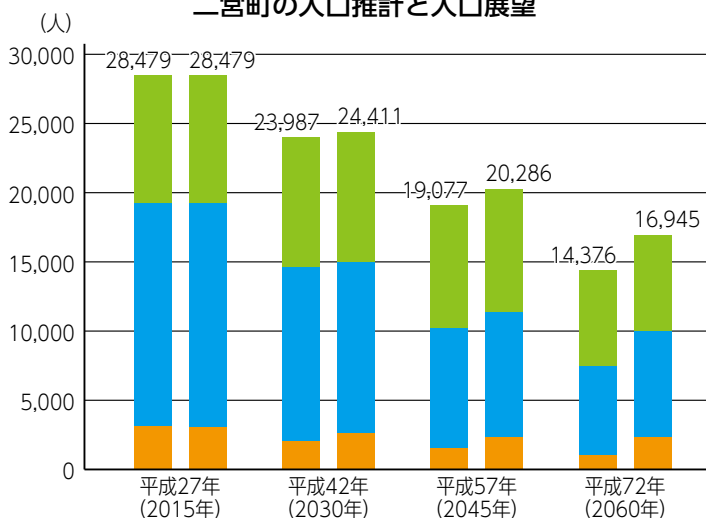
《新耐震基準導入 (昭和56年) 以前に建築された主な公共施設》

- ①町役場庁舎
- ②町民センター
- ③武道館
- ④駅前町民会館

■人口の現状と課題

国立社会保障・人口問題研究所によると、町の人口は2060年には約1万4千人となり、2010年の約3万人と比べて
約5割に減少すると推計されています。年齢区分別の割合で見ると、2060年には年少人口が7.0%、生産年齢人口
が44.8%、老年人口が48.2%となり、少子高齢化が進むことが予想されます。

二宮町の人口推計と人口展望



※グラフ左：人口推計 右：人口展望

■ 0～14歳 (年少人口) ■ 15～64歳 (生産年齢人口)
■ 65歳以上 (老年人口)

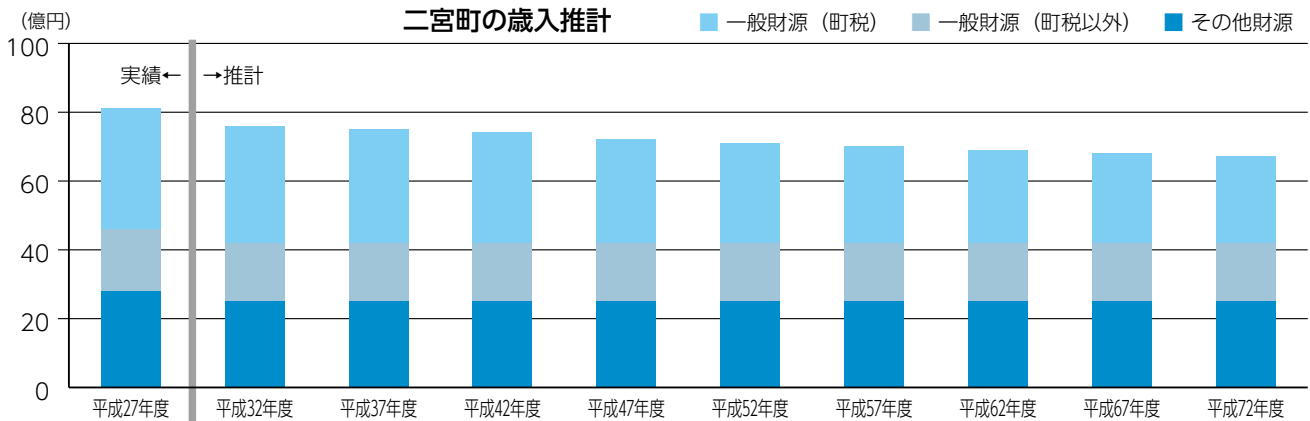
この推計を受けて、二宮町人口ビジョンでは、
転出超過の解消と出生率の向上により2060年の人
口を約1万7千人以上にするを目指していま
す。

そのために、二宮町総合戦略では、①「安心な
くらしを守り、住み続けられる地域をつくる」、
②「二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案
し、新しい人の流れをつくる」、③「若い世代の結
婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめ
る環境をつくる」、④「二宮町で安心して働き、仕
事を生み出しやすい環境をつくる」の4つの基本
目標の下、具体的施策の第一番目として「公共設
施の総合的なマネジメントとコンパクトさを活か
した暮らしやすいまちづくり」を位置づけました。

■財政の現状と課題

生産年齢人口の減少は町民税などの町の税収の減少に直結し、また高齢化に伴って高齢者および障がい者支援などにかかる扶助費など義務的経費が増加することにより、将来的に公共施設に投資できる費用も減少することが予測されます。

二宮町人口ビジョンの将来人口展望に基づく試算では、平成27年度の約81億円から平成72年度には約67億円まで歳入が減少することが見込まれており、現在よりも厳しい財政状況の中で公共施設を維持していくためには、施設全体を計画的に縮減していく必要があります。



■「三原則」と「4つの基本方針」

計画策定にあたっては、未利用地の活用も含め、平成25年度に策定した「二宮町公共施設に関する基本方針」の公共施設三原則と4つの基本方針を踏まえて検討を行っています。

公共施設三原則

- 1 新規整備は原則として行わない
- 2 施設の更新（建替）は複合施設とする
- 3 施設総量（総床面積）を縮減する

4つの基本方針

1 将来を見据えた施設配置

- ・ 質と量のバランスの確保
- ・ 柔軟性をもたせた施設の配置

3 効率的・効果的な管理運営

- ・ 受益者負担の推進
- ・ 地域による運営
- ・ 民間活力の活用

2 公共施設の多機能化と統廃合

- ・ 施設の多目的利用
- ・ 効率化のための施設の統廃合

4 計画的な施設整備

- ・ 施設の長寿命化
- ・ 計画的な大規模施設の改修や建替え



町立体育館



百合が丘子育てサロン

■公共施設の今後

町内の公共施設全66施設を再配置の対象とし、既存施設の長寿命化を図るとともに、施設の現状や利用状況を把握したうえで、複合化や統廃合を進め、更新費用の平準化と縮減を図ります。

今年度策定を進めている「公共施設再配置・町有地有効活用実施計画策定方針（仮称）」では施設の総延床面積や50年間に掛かる更新・改修費についての削減目標を設定し、年度末にはこの策定方針への意見募集を行う予定です。

問 企画政策課戦略推進班